



12月4～10日は  
第73回 **人権週間**  
「誰か」のことじゃない。  
虐待 いじめ 差別のない社会へ

人権週間は、皆さんに人権について考えてもらうために、人権啓発活動を強化することを目的とした期間です。今年は高富小学校の大村校長先生に、学校での人権に関する取り組みや子どもの人権問題などについて話を聞きました。皆さんも人権について考えてみませんか。

図福祉課  
TEL 22-6837  
図学校教育課  
TEL 22-6844

高富小学校では人権教育についてどのように取り組んでいますか

本校では学校教育目標の一つに、「ちがいを認め、協働できる子」を掲げています。この学校教育目標を達成するために、令和3年度も「人権教育の充実」を重点の一つに挙げて、さまざまな取り組みを行っています。

具体的な人権教育について

まずはよいことを見つけます。仲間や自分のよいところに目を向けることで、自己肯定感が上がります。それは温かい学級にもつながります。そして、あなたが見つけたAさんのよいことは、BさんCさんにもあるんだよってことに気が付くと、差別や偏見の解消にもつながります。

また、人権集会を行ったり、外部講師の方からお話を聞いたりすることがあります。これらも学習を深める機会となります。

まずは「誰か」じゃなくて  
身近な人とのちがいを認め合う

よく多様性やグローバルと言われますね。でも、多様性やグローバルは身近なところにあると思うんです。例えば、パラリンピックが開催されたときには、いろんな国のいろんな人たちに注目が集まりましたが、ちよつと立ち止まって、自分はずいぶん隣の人とうまくやってる？って問いかけてみてほしいんです。学校の友達とか家族とか、身近な人たちがいかに認めあっているかがすごく大切です。

よいことを見つけを核とした人権教育で、ちがいを認めて協働する力を養うことができると思っています。  
どのように子どもの声を聞いていますか

心のアンケートを年に4回とっています。気になる質問項目にチェック



クを入れている子がいたら、すぐに校内で共有します。そして、アンケートの後の教育相談週間で、担任の先生に思っていることを話せる機会を設けています。日頃言えない悩みがある子の中には、こういった機会に自分の思いを書ける子もいます。アンケートをとり、話を聞き、内容に応じて方法を考えて寄り添い指導する、という一連の流れを毎年行っています。

### スクールカウンセラー(以下SC)の先生などによる、日常的な相談業務は行っていますか

SCの先生は高富中学校と兼務で配置されているので、月に2、3回ほどお越しいただいています。相談できるのはSCの先生だけでなく、教育相談担当の保健室の先生や、特別支援教育に長けた指導教諭の先生、もちろん担任の先生もいます。窓口は多い学校なんじゃないかな。日常のささいな悩みも、いろんな大人に相談できる環境があることで、子どもたちの安心感につながっていればうれしいです。

コロナ禍での差別や偏見をなくすためにどのような対応をしていますか  
全校集会では、コロナウイルスに感染したとしても、その人が悪いわけ

ではない、誰にでもあることだという理解を深める話をしてきました。

大切なのは、コロナに限らずさまざまな理由で休んだ後にその子が登校するときのケアです。例えば、つまらない臆測や推察でその子が嫌な思いをしないように、ご家庭や本人と相談して、みんなに休んでいたことをどう伝えたいかを確認することもあります。

また、お休みした子の学習が滞らないように、担任の先生はプリントやタブレットを活用して学習をフォローしています。学習を保障することも、人権保障の一つかもしれませんね。



### ICT教育を通して情報モラルを指導する

市内小中学校では1人1台のタブレットが支給されました。ネットでの誹謗中傷などが報道される時代ですが、ネットの使い方についてどのように指導していますか

タブレットが支給されるずっと前からある問題ですね。今ではどの学年の道徳の教科書にも、情報モラルのページがあります。情報モラルについて指導することは当然なんです。

現在授業ではテレビ会議のアプリを使うことがあります。使い始めのころには、チャットに少しよくない言葉を書き込むという出来事もありました。簡単に書き込めるので、子どもはあまり深く考えずに書いてしまうこともあるんです。でも、問題が起きたときに指導のチャンスです。何がいけなかったのかを考える機会とします。子どもたちが学ぶチャンスととらえています。

これからの子どもたちはネットで世界中の人とつながることが出来ます。問題があったら使わせないのでなくて、正しい使い方を指導することが大切だと考えています。

### 子どもの話と存在を受け止めて

保護者の皆さんに伝えたいこと

子どもの話に耳を傾けてくださいということなんです。子どもの訴えに対して信頼できる大人が「そうやったの、そういう気持ちでしたんやね」と聞いてくれるだけで、子どもの心は安定するし、満足感にもつながります。そして、子どもは自然と悩みを乗り越えて、次の一步を踏み出せるんです。子どもの根本の願いは受け止めてもらうことなんじゃないかなと感じます。話を聞くことは、その子の存在を受け止めることでもあります。だからまずは、子どもの話を受け止めることから始めてほしいですね。

### 子どもたちに伝えたいこと

宿題が嫌な日も、何となく学校に行きたくない日もあるかもしれないけど、ちゃんと待ってるからおいでって伝えたいですね。来れば何とかなるよって。気持ちが沈む理由はいろいろだと思うんですけど、学校に来れば先生たちがいるし、ちゃんと見てるから、待ってるよ。



## 個人のちがいを生かした

## 学びができる学校を目指したい

人権教育を継続する中で、やってみたいことなどがありますか

壮大な話になりますが、いろんなちがいのある子どもたちがありのままで学校に来て、そのちがいに応じた学びを自然にできる学校にしていきたいです。小規模校のある山県市だからこそ、個人のちがいを生かした学びが実現できるんじゃないかなと思います。

今の子どもたちはすごく周りに気を遣って生きていますよね。匿名性のあるSNSなどでは何でも好きなことを言えるけれど、自分のリアルを知っている人たちとのコミュニケーションにおいては、自分を上手に出せないとか。学校が、子どもの持っている個性やちがいをそのまま受け止めて、そのよさを生かす場所だったら、もっと過ごしやすいかなと思うなと思います。自分を包み隠さずいられて、そういうあなただけOKだよって言える場所がいいですね。

## 知ることから理解が始まる

### 最後に一言

人権問題は広くて難しい問題だから、いろんなアプローチがあつていいと思います。人権週間のテーマの



「誰か」のことじゃない。つていいですね。自分のこととして捉えなきゃいけませんから。

人権問題もきつと、遠い誰かのことと思っているとなくなっちゃうのかなと思います。知らないから差別したり、偏見があつたりするなら、まずは知ることが大切ですね。知ることから理解が始まる。どんなときも知ろうとする姿勢や意識を持つだけで、その問題や人に対して理解が深まって、優しい気持ちで生きていけると思います。

## 山県市の人権啓発活動

### 人権同和問題の啓発

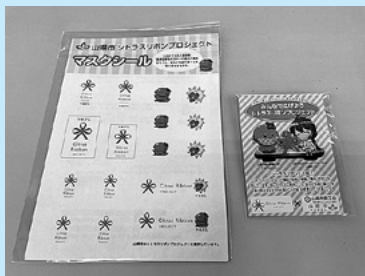


美里会館では、地域全体における人権同和問題などの速やかな解決に資する隣保館として昭和40年に開設以降、人権同和問題の啓発を行っています。

令和2年12月～令和3年1月には人権・同和問題パネル展を開催し、同和問題に関するパネルの他、子どもや女性、障がいのある人に関する人権問題の各パネルを展示しました。

また、パンフレットや参考図書が閲覧できる人権同和コーナーを設置しています。

### みんなで広げよう シトラスリボンプロジェクト



このプロジェクトは、新型コロナウイルス感染者や医療従事者の皆さん、ワクチンを打たない選択をした人などに対する差別や偏見をなくし、コロナ・ハラスメントの根絶を目指すものです。

市ではマスキングテープを作成し、小中学生や保育園児に配布しました。

また、山県市商工会と市でバッジを作成し、商工会員や市職員に配布しました。

### 山県市人権擁護委員会



山県市人権擁護委員会では、人権啓発朗読CDを作成して市内小中学校に贈ったり、毎月1回、市役所市民相談室で人権擁護委員による人権相談を行ったりしています。人権相談の日時などについては22ページをご覧ください。

また、人権教育に関する図書を購入し、市図書館に寄贈する取り組みも行っており、今年も寄贈する予定です。





# 伊自良湖 ワカサギ釣りのシーズン到来!!

今年も伊自良湖でのワカサギ釣りのシーズンが到来しました。

伊自良湖は、周囲約2・4キロメートルに約54万トンの水量をたたえ、山からきれいな水が流れ込んでくる美しい人工湖です。

毎年9月中旬からゴールデンウィーク明けまでワカサギ釣りが楽しめます。伊自良湖のワカサギ釣りは比較的大きなワカサギが釣れることが魅力で、過去一番釣り上げた人は、1日で1,500匹釣ったそうです。

伊自良湖のワカサギ釣りは、県外からも多くの人が訪れる人気スポットになっています。この冬の思い出にぜひ一度足を運んでみてください。

岡農林畜産課 TEL 22-6830

伊自良湖は僕のふるさと！  
みんなもワカサギ釣りを楽しんで！  
もしかすると僕と会えるかも！  
みんなの訪問待ちよるよ！

